

日本・石西礁湖とインドネシア・マナドにおける サンゴ群集の変遷・現状と再生について

Minlee Yap 氏
(総合地球環境学研究所)



石西礁湖・南東リーフの白化前(左)と白化後(右)の様子

沖縄県石垣島と西表島の間位置する石西礁湖は日本最大のサンゴ礁です。1998年夏に起きた大規模な白化をきっかけに、石西礁湖のサンゴ群集は大きく変わりました。一方、世界の3/4のサンゴが生息し、熱帯海域の生物多様性を維持する上でとても重要な海域であるインドネシアのマナドでも、サンゴの衰退傾向が見られています。本発表では、石西礁湖とマナド海域におけるサンゴ群集の変遷と現状、そして再生についてお話しします。

(発表要旨より)

日時: **2014年2月24日(月)16時より**

場所: **京都大学 総合研究2号館4階会議室**
(AA447)



参加費・事前登録は不要です。
みなさま奮ってご参加下さい。
会后には懇親会も予定しています。

〈お問い合わせ先〉

小坂 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科
kosaka@asafas.kyoto-u.ac.jp

柳澤 京都大学地域研究統合情報センター
masa@cias.kyoto-u.ac.jp